

## 株主の皆様へ



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第118期第2四半期連結累計期間（平成28年12月1日～平成29年5月31日）におけるわが国経済は、緩やかな回復基調を続けております。海外経済は、新興国の一部に

弱さが残るものの、緩やかな成長が続いております。

このような状況のもと、当社グループは平成29年度から平成31年度までの3か年を対象とする「中期経営重点課題」および「カンパニービジョン」を策定し、各事業の特性に応じた施策を実施すべく努めました。

当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高141億44百万円、営業利益9億98百万円、経常利益10億29百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、繰延税金資産計上による法人税等△6億14百万円の影響により16億32百万円となりました。

今後も引き続き、顧客満足度の向上を図り、各事業分野の収益力を高め、併せてグループシナジー効果による事業拡大に向けた活動を強化して、企業価値の向上に努めてまいります。

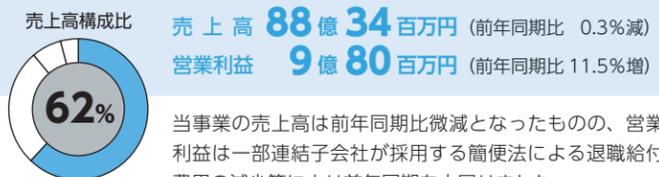
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらず格別のご支援とご理解を賜りますよう、よろしく御礼申し上げます。

平成29年7月

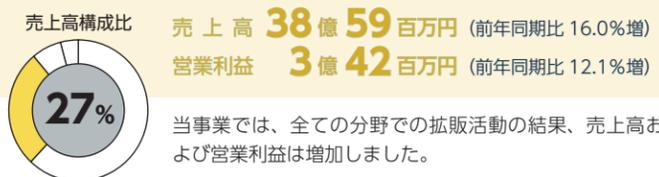
代表取締役社長 名倉 宏之

## セグメントの状況

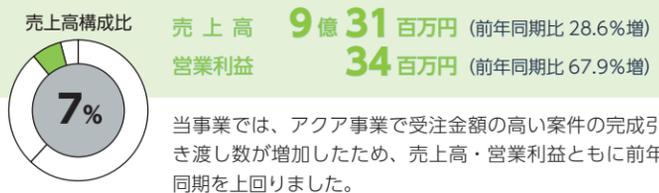
### 産業用機能フィルター・コンベア事業



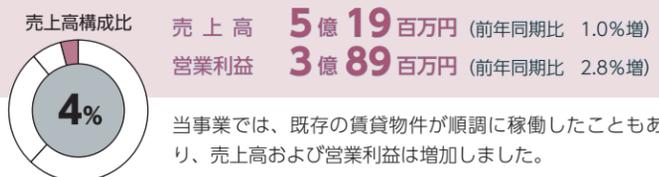
### 電子部材・フォトマスク事業



### 環境・水処理関連事業



### 不動産賃貸事業



## 社長インタビュー

# 「日本フィルコンの社会貢献活動」

創立100周年を迎えた日本フィルコンは、「社会に認知される質の高い企業グループ」を目指して、様々な社会的課題の解決につながる提案を加速し、持続可能な社会の実現に向けた活動を展開しています。日本フィルコングループの事業を通じた社会貢献活動について、名倉社長に聞きました。

**Q** 日本フィルコンが社会から期待されている役割に応える事業活動について、お聞かせください。

**A** 様々な分野でものづくりに携わるお客様に工業用機材・部材を提供する当社では、安定的な供給責任を果たすために綿密な事業継続計画（BCP）を策定し、緊急時に早期の復旧と継続的な供給を担保する体制を確立しています。

地震等の災害発生時においては当然、人命の救助および安全の確保が最優先課題となりますが、震災後には二次被害防止の観点からもライフラインの復旧が重要な課題となります。実際、東日本大震災や熊本地震等の際には、補給や輸送の経路が遮断された状況下での飲料水や電力の供給が克服課題として指摘されました。こうした社会的な課題に対して当社の技術を活用した最適なソリューションを提供することも、社会の期待に応える事業活動になると考えます。

当社は、再生可能エネルギーを活用して非常用電源



と飲料水を供給する次世代の自立型水素発電・飲料水供給システム「HydroX®」を開発しています。同システムは太陽光発電により水を電気分解し水素を発生させる「ミニ水素ステーション」と、防火水槽やプール等の水をろ過して飲料水を作る「可搬型ろ過ステーション」で構成されています。移動や単独稼働も可能であり、非常時のライフライン確保用設備として有効にご活用いただけます。

**Q** 事業活動を通じた社会貢献活動について、日本フィルコンが基本としている方針をお聞かせください。

**A** 「感謝と誠意をかたちで社会へ」を企業理念に掲げる当社では、社会との共有可能な企業価値の創造と向上を目指しています。地域社会においても、雇用機会の創出等、密接な連携と協調関係を基調とした貢献活動を積極化しています。

当社静岡事業所（静岡県富士市）は、非常時に事業所内の井戸水や備蓄品を近隣住民に提供する体制を整えておりま

す。「HydroX®」も、市内の小学校に寄贈させていただきました。非常時以外にも環境・防災教育の教材として同システムをご活用いただけるものと期待しています。

本社機能を置く稲城市においても、自治体の主催する様々な催しに協賛しております。

今後も地域の振興と活性化に協力してまいります。



富士市内の小学校に設置された「HydroX®」

**Q** 持続可能な社会の実現に向けて、日本フィルコングループが今後注力される事業活動についてお聞かせください。

**A** 省エネルギー・資源再利用・低環境負荷といった社会的課題に応えるため、当社グループが確立する「分離」と「搬送」のコア技術を活かした事業機会の創出に努めています。

ろ過装置の技術を蓄積する（株）アクアプロダクトでは、環境対応型の水処理関連事業に注力し、排水と再利用水を加圧浮上装置で分離する浄化設備「クロフタ」を提案しています。

消波ブロック用に開発した高比重コンクリート「Gコン」は放射線の遮蔽用途として、また型枠賃貸している魚礁は生物の繁殖を促し、海床砂漠化を防止する環境対応型建築資材として活用されています。

東京オリンピックに向けて積極的な受注活動を続けている「ミルタプール」は、コンクリートとタイルで作られる従来のプール構造と比較してCO<sub>2</sub>の排出量を50%抑制した施工が可能です。

当社総合研究開発室では環境対応型の次世代製品開発も積

極化し、食品や薬品等のアルミ付包装材料のリサイクルシステムを研究する会社に出資して、モデルプラントでの実証実験を進めています。

当社は、今後もグループ各事業のシナジー効果を追求して社会的な課題に応える製品・技術の開発を積極化し、「社会に認知される質の高い企業グループ」として持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

## TOPICS

### JR南武線南多摩駅前広場に「ヤッターワン」モニュメントを寄贈

当社100周年記念事業での稲城市への寄附金が活用され、南多摩駅前広場に市在住のメカニックデザイナー・大河原邦男氏がデザインを手がけた「ヤッターワン」のモニュメントが完成しました。4月22日の「南多摩駅前まちびらき式典」における除幕式では、多くの子供たちの歓声に迎え入れられました。



©タツノコプロ・読売テレビ 2008

## 財務ハイライト

### 連結貸借対照表 (単位: 百万円)

	当第2四半期末 平成29年5月31日現在	前期末 平成28年11月30日現在
流動資産	18,600	18,518
固定資産	19,151	17,611
流動負債・固定負債	17,967	18,911
<b>純資産①</b>	<b>19,784</b>	17,218
総資産	37,752	36,129

(注) 記載金額は、百万円未満の数字を切り捨てて表示しております。

### 連結損益計算書 (単位: 百万円)

	当第2四半期 平成28年12月1日から 平成29年5月31日まで	前第2四半期 平成27年12月1日から 平成28年5月31日まで
売上高②	14,144	13,430
売上総利益	5,029	4,793
営業利益③	998	895
経常利益	1,029	926
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,632	820

(注) 記載金額は、百万円未満の数字を切り捨てて表示しております。

### 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)

	当第2四半期 平成28年12月1日から 平成29年5月31日まで	前第2四半期 平成27年12月1日から 平成28年5月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	749	1,246
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,426	△482
財務活動による キャッシュ・フロー	58	△214
現金及び現金同等物の 四半期末残高	3,703	3,386

(注) 記載金額は、百万円未満の数字を切り捨てて表示しております。

### ① 純資産 (単位: 百万円)



**POINT** 純資産合計は、前期末に比べて25億66百万円増加し、197億84百万円となりました。これは、主として親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加であります。

### ② 売上高 (単位: 百万円)



**POINT** 電子部品・フォトマスク事業と環境・水処理関連事業の売上高が増加したこともあり、売上高は141億44百万円(前年同期比5.3%増)となりました。

### ③ 営業利益 (単位: 百万円)



**POINT** 営業利益は、売上高の増加等により、9億98百万円(前年同期比11.4%増)となりました。

## 会社概要 (平成29年5月31日現在)

商号 日本フィルコン株式会社  
 本店所在地 東京都稲城市大丸2220番地  
 TEL 042(377)5711(代表) FAX 042(377)5714  
 設立年月日 昭和11年3月18日(創業大正5年)  
 資本金 26億85百万円  
 上場取引所 東京証券取引所(市場第一部)  
 ホームページ <http://www.filcon.co.jp/>

### 主要な製造、販売品目

紙・パルプ抄造用網、各種工業用特殊網等  
 電子部品、フォトマスク製品、太陽光発電システム設備等  
 プール本体および水処理装置、その他環境関連製品等  
 店舗・駐車場の賃貸等

### 主要な事業所等

当社の主要な事業所  
 本社・東京事業所(東京都稲城市) 静岡事業所(静岡県富士市)  
 北海道営業所(北海道千歳市) 大阪営業所(大阪府大阪市)  
 上海事務所(中国 上海市)

### 子会社

Filcon America, Inc. (アメリカ オレゴン州)  
 FILCON FABRICS & TECHNOLOGY CO., LTD. (タイ プラチンブリ県)  
 FILCON EUROPE SARL (フランス バ・ラン県)  
 関西金網株式会社(本社: 大阪府大阪市)  
 Kansai U.S.A. Corporation (アメリカ テキサス州)  
 Siam Wire Netting Co., Ltd. (タイ ランブーン県)  
 TMA CORPORATION PTY LTD (オーストラリア 西オーストラリア州)  
 関西金属網科技(昆山)有限公司(中国 江蘇省)  
 エスデイアイ・エレクトロニクス・ジャパン株式会社(本社: 東京都稲城市)  
 株式会社アクアプロダクト(本社: 東京都千代田区)

### 当社従業員数475名 企業グループ従業員数1,216名

### 取締役・監査役 (平成29年5月31日現在)

代表取締役社長	名 倉 宏 之
常務取締役	松 木 義 夫
常務取締役	齋 藤 芳 治
取締役	松 下 篤 史
社外取締役	片 山 洋 一
常勤監査役	内 田 勝
社外監査役	村 山 周 平
社外監査役	水 野 秀 紀

## 株式の状況 (平成29年5月31日現在)

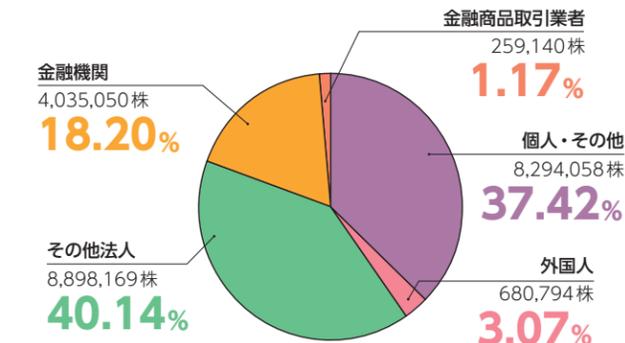
発行可能株式総数	80,000,000 株
発行済株式の総数	22,167,211 株
株 主 数	14,490 名

### 大株主

株 主 名	持株数(百株)	持株比率(%)
王子ホールディングス株式会社	27,001	12.20
大王製紙株式会社	18,165	8.21
日本フィルコングループ従業員持株会	15,922	7.19
日本製紙株式会社	15,581	7.04
三菱UFJ信託銀行株式会社	10,230	4.62
いわき大王製紙株式会社	4,740	2.14
竹田昌弘	4,180	1.89
株式会社みずほ銀行	4,000	1.81
第一生命保険株式会社	3,950	1.78
大津板紙株式会社	3,820	1.73

(注) 1. 持株比率は自己株式(36,201株)を控除して計算しております。  
 2. 持株数は百株未満は切り捨て、持株比率は小数点第3位を四捨五入して表示しております。

### 所有者別持株比率



株主メモ	
事業年度	12月1日から翌年11月30日まで
配当金の基準日	期末配当金: 11月30日 中間配当金: 5月31日
定時株主総会	毎年2月
議決権の基準日	定時株主総会: 11月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
同 郵 送 先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
単 元 株 式 数	100株
公 告 方 法	電子公告により、当社のホームページ <a href="http://www.filcon.co.jp/">http://www.filcon.co.jp/</a> に掲載いたします。ただし、 電子公告によることができない事故その他やむを得ない 事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株式に関するお問合せ先		
	証券会社にお口座を お持ちの場合	特別口座の場合
お問合せ先	お取引の 証券会社 になります。	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

### 株主優待制度 毎年11月末現在の株主様へ

以下のとおり株主優待制度を変更いたしました。

#### 1. 優待内容

保有株式数	保有期間	優待内容
100株以上1,000株未満	1年未満	500円QUOカード
100株以上1,000株未満	1年以上継続	ワイン1本
1,000株以上	1年未満	1,000円QUOカード
1,000株以上	1年以上継続	ワイン1本(限定品)

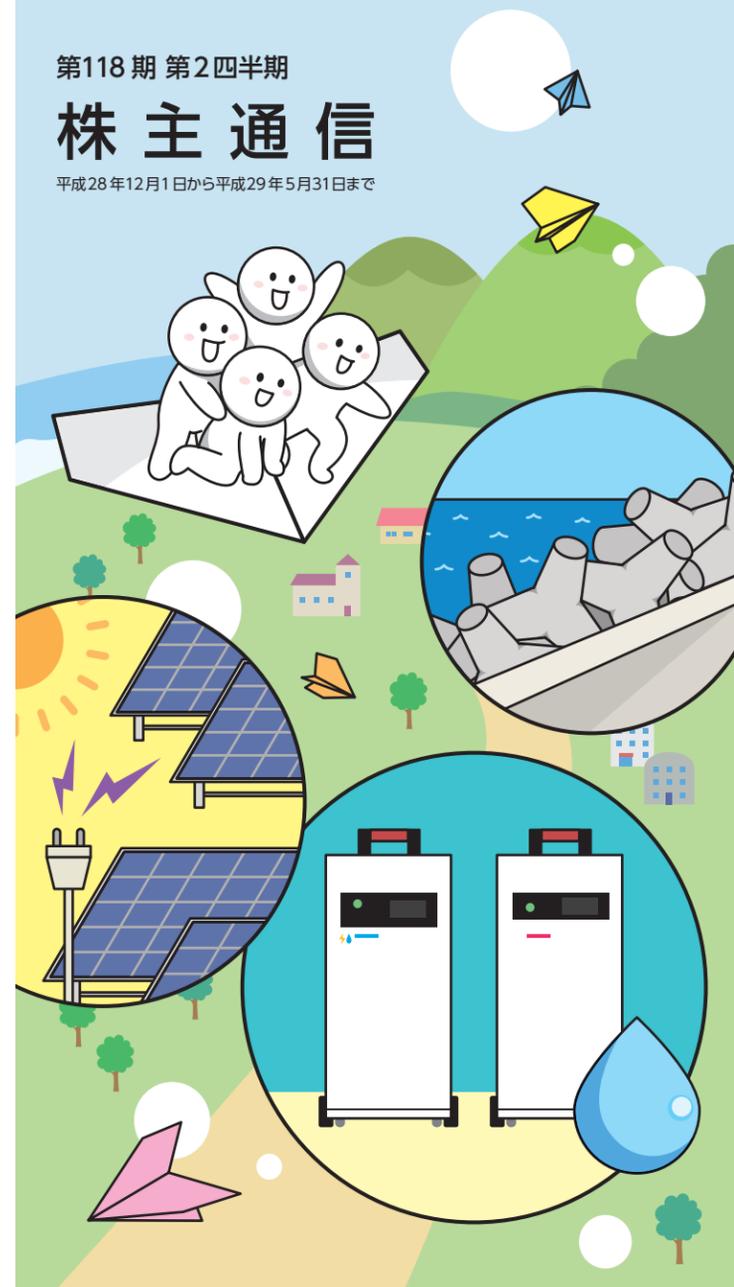
#### 2. 贈呈の時期

- QUOカード: 毎年2月下旬の定時株主総会終了後の「定時株主総会決議ご通知」および「株主通信」とともにお送りする予定です。
- ワイン: 毎年3月下旬にお送りする予定です(従来通り)。

#### 3. 実施時期

平成29年11月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主様より変更を実施いたします。

- (注) 1. 1年以上継続保有の株主様とは、5月31日および11月30日現在の株主名簿に、同一株主番号で、3回以上連続で記載または記録された株主様といたします。  
 2. 初年度については、同一株主番号で、平成29年5月31日および同年11月30日現在の株主名簿に2回以上連続で記載または記録された株主様は、1年以上継続保有の株主様といたします。



第118期 第2四半期

# 株主通信

平成28年12月1日から平成29年5月31日まで